

# NEWS LETTER

発行 : 水資源 環境学会

NEWS LETTER No.52

2010年1月21日

2009年度 冬季研究会

## 水利学説史と現代の課題

2009年度冬季研究会を下記の要領にて開催致します。皆さまのご参加をお待ちしております。なお、会場が、前号でお知らせした所から変更になっておりますので、ご注意ください。

**【基調報告要旨】**日本における農業水利の研究は、第二次世界大戦の敗戦を契機にして活発に行われるようになった。そうした水利研究のなかで、1950年代は稲作生産力の停滞性の打破と各地に残る不合理な水利慣行の変革のための骨太な基礎的研究が相次いで公表された時期である。また、1970年代には、経済の高度成長を背景として、変貌しつつある農業水利の対内的・対外的問題が表出したことを受けて、日本における農業水利の基本的な性格を問い直しながらの研究が、再度活発化した時期であった。

この報告では、これら二つの時期に展開された一連の研究のうち、とくにいくつかの代表的な研究を対象としながら、それらが提出した「理論構造」もしくは「モデル」を、その問題背景と課題に照応させながら整理することを第一の目的とする。また、そうした研究史を受け継ぎながら、現時点で究明が必要と思われる水利をめぐる課題の大枠を提出することを第二の目的とする。

### 目次 :

2009年度 冬季研究会 ご案内	1
2010年度 研究大会 ご案内	2
2010年度 夏季研究会 第一報	3
2009年度 夏季研究会 報告	3
事務局からのお知らせ	5

**【日 時】** 2010年 3月13日 (土) 13:30 ~ 17:00

**【場 所】** (社) 京都府農協会館 5階会議室  
JR京都駅八条口から徒歩5分  
〒601-8585京都市南区東九条西山王町1番地  
TEL :075-681-5169



### 【基調報告】

水谷正一 (宇都宮大学農学部)

### ・コメント

秋山道雄 (滋賀県立大学環境科学部)

### 【総合討論】

司会 池上甲一 (近畿大学農学部)

\* 研究会終了後、懇親会を予定しております。

連絡先 秋山道雄 (滋賀県立大学環境科学部)

TEL :0749-28-8274

FAX :0749-28-8344

E-MAIL :akiyama@ses.usp.ac.jp

## 2010年度 水資源・環境学会

## 研究大会のご案内

研究大会テーマ：「東アジアの水資源・環境」

研究大会開催日： 2010年6月5日(土)

アジアは、南北に結びついているユーロアフリカやアメリカと異なり、西アジア、中央アジア、東南アジア、東アジアと、東西に長くつながっています。このうち中国、日本、韓国、北朝鮮からなる東アジアは、2008年の世界人口67億5千万人の約23%、2007年の世界GDP(国内総生産)の約16%(北朝鮮を除く)を占めるまでになり、近年、経済力や工業力を急速に伸ばし、今後の発展地域として世界から熱い目が向けられています。

しかしながら、生活、農業や工業を支える水資源や水環境の現状より、東アジアの成長にも楽観を許さない面があります。世界の年間降水量や気温の分布を見ると、東アジアでは、年間1000mm、1月の平均気温0℃の線が、おおむね北海道から朝鮮半島、中国中央部へかけて北東から南西に走り、これらを境に水資源や水環境の事情が大きく変わります。また、アムール川、黄河、揚子江、珠江、西江などの大河があるものの、断流といわれるように、東アジアの水資源や水環境は、量的にも質的にも決して豊かであるとはいえません。特に、大陸部や半島部では、すでに深刻でさえあります。

経済成長、生活の近代化が急速に進む東アジアでは、今後、安全で良質な水需要が高まることは必至であり、循環資源としての水不足や水紛争が心配され、世界から水ビジネスの参入が予想されます。

今回は、東アジアに焦点をあて、グローバルな眼で水資源と水環境の展望を議論したいと願い、企画しました。会員の皆さまからの多数の応募をお待ちしています。

【大会会場】 コラボしが21  
(最寄駅 JR膳所駅・京阪膳所駅から徒歩15分 / 京阪石場駅から徒歩3分  
〒520-0806 大津市打出浜2-1 (TEL.077-511-1400))

【発表応募締切】 2010年3月31日(水)必着  
(電子メールで「研究発表の区分」(自由論題または研究大会テーマ論題)  
「タイトル」「報告者名」400字程度の要旨をお知らせください)

(研究発表の区分)  
自由論題          研究大会テーマ論題

【発表原稿締切?】 2010年5月24日(月)必着

【応募問合せ先】 若井 郁次郎(大阪産業大学・人間環境学部)  
電話:072-875-3001 内線7754 / FAX:072-871-1259  
E-mail: wakai@due.osaka-sandai.ac.jp



## ～2010年度夏季現地研究会第一報～

2010年の夏季現地研究会は、下記のテーマで実施する予定です。具体的なコースにつきましては研究企画委員会で現在検討中で、詳細については次のニュースレターに掲載致します。是非ご予定頂きたくお願い致します。また、淡路島や徳島県の水資源や環境に関する情報などございましたら、是非下記メールアドレスまでお知らせください。

テーマ(仮) : 「豊水地と乏水地 徳島県那賀川流域と淡路島」  
日 程 : 2010年8月27日(金)・28日(土)  
訪問予定地 : 兵庫県淡路島および徳島県那賀川流域

概要 : 瀬戸内側の気候に含まれる淡路島は全国有数の乏水地であり、歴史的にみても農業用水の確保のために並々ならぬ精力が注がれてきました。徳島県那賀川流域は豊富な降水量を有する地域で、旧木頭村において計画されていたダム建設が住民の反対で撤回されたことでも知られています。今回のツアーでは、それぞれの地域における水資源に関するスポットの見学のほか、阿波・淡路の自然や文化を体感できる観光スポットを見学できるようにとっております。

担当 : 矢嶋 巖 (神戸学院大学) yajimai@human.kobegakuin.ac.jp

## 2009年度 夏季研究会

清溪川と韓国版ニューディール政策 報告 (2009年8月30日～9月1日)

花嶋温子 (大阪産業大学)

水資源・環境学会の2009年度夏季研究会は「清溪川と韓国版ニューディール政策」と題して韓国ソウルを訪ねました。日曜日に出発して火曜日には帰国というあわただしい日程でしたが、とても充実した研究会となりました。

### 8月30日(日)

訪問先調整同時進行型研究会の始まりは、関西空港のロビーでした。飛行機の出発を待ちながら、現地での詳細な日程が決まっていなかったことが判明し、韓国に国際電話をかけるN先生を囲んで、「なんとかなるさ」と非常に楽観的な参加者達でした。関西空港から2時間ほどのフライトで仁川(インチョン)国際空港に到着、ここで成田空港からの2名と合流し、一行は11名となりました。バスで迎えにきてくださった名物ガイドの金寿榮さんに、いきなり

「お腹がすいた」とリクエスト。空港のすぐ近くの「海の家」のような食堂へバスで乗りつけてアサリうどんを食べました。訪問先調整同時進行型研究会ですので、欲求にすぐ対応します。到着1時間もたらずして「韓国に来てよかった」と一同大満足でした。

ソウル市内のホテルに着き、現地集合の学生達などと合流してメンバーは15人に増えました。午後は、ソウルの中心街を流れる清溪川(チョンゲチョン)を歩いて見学しました。清溪川は、1950年代にコンクリートで封鎖され、上に高架道路が作られていた川です。現在の韓国大統領である李明博(イ・ミョンバク)氏がソウル市長のときに、安全性に問題のあった高架道路を撤去し、暗渠にされていた川を復活させて市民の憩いの場をつくりだしました。全長

5.8kmの改修区間のうち、私たち一行は2.5kmほどを歩きました。知識としては知っていても、実際に歩いてみるとやはり感じる場所が多く、それぞれが思い思いに写真を撮るのでなかなか先にすすめません。ガイドの金さんは、歩きながらずっと清溪川の歴史や洪水調整の仕組みなどをよどみなく話つづけてくださいました。

その後バスに乗り、車中もソウルの歴史や漢江（ハンガン）にかかる橋の一つ一つの説明をよどみなく説明して下さるガイドの金さんのお話を、睡魔と闘いつつ聞きながら船着き場へ到着しました。夕刻は遊覧船に乗って漢江（ハンガン）の水面からソウルの街の見学です。高層住宅が立ち並び、川辺に親水空間の整備された街並みをながめ韓国の経済発展を目の当たりにするとともに、聖水大橋（ソンステギョ）崩壊事故（1994年に朝の通勤時間帯に橋が落下し、死者32人を出す大事故となった）の現場など韓国の公共事業についても思いをはせることができました。そして夜は焼肉へと続いたのでした。



写真1 市民の憩いの場となっている清溪川（チونغゲジョン）

8月31日（月）

朝、徒歩で市内中心部に位置する景福宮（キョンボクン）へ行き、駆け足で広い宮殿を見てまわりました。ここでも、ガイドの金さんは熱心に歴史の解説をしてくださいました。その後、韓国観光協会中央会を表敬訪問し、会長の慎重睦（シン・ジュンモク）氏や韓国観光公社の金奉起（キム・ボンギ）本部長と会談し、その後昼食を一緒しました。韓国流のホスピタリティを体験し、文化の違いとだからこそ交流が必要であることを実感することができ

ました。

午後はバスで、ソウルの南西にある始華湖（シハホ）の潮力発電事業を見学に行きました。写真2からもわかるように、始華湖は約12kmの防潮堤で締め切られて作られた人工の湖です。始華湖の水は淡水化して農業用水に使う計画でしたが、周辺の工場排水の流入などにより汚染が進み使うことができなくなり、汚染の問題も深刻でした。そこで、堤を開けて海水と湖水を入れ替えることによって水質を改善することと、その際の流れを使った潮力発電との一石二鳥を狙った事業が始まりました。2010年完成予定の潮汐発電所は、世界最大となる予定で発電容量は254MW、年間552GWhの発電量で約31万トンの二酸化炭素排出削減につながります。すでにCDM（クリーン開発メカニズム）の承認も得ているそうです。

その後、バスは湖の周りをまわり、Sihwa reed wetland park（水質改善のための人工湿地）まで行きましたが、あいにく月曜日は休園で中に入ることはできませんでした。しかし、人工湿地の規模の大きさは充分に見ることができました。

夕刻には、韓国初代環境庁事務次官であった金政炫氏と懇談、会食をしました。メニューは蔘鶏湯（サムゲタン）でした。

なお、名物ガイドの金さんは、バスの車中ずっと、ありとあらゆる事項について解説をしてくださいました。博識ぶりには本当に頭が下がります。

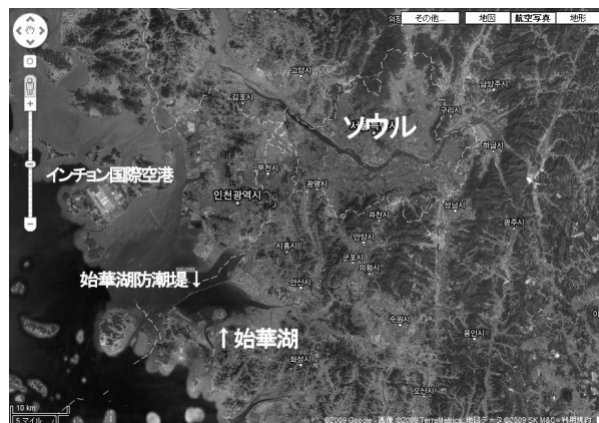


写真2 始華湖の位置（Googleの衛星写真より）





9月1日(火)

この日は朝から自由行動でした。ちなみに参加者の一部である私たち4人は、韓国版ポケモンカードや韓国のりを土産に購入しただけでなく、清溪川文化館、韓国地域暖房公社（ナンジドウ埋立地からのメタンガスによる地域熱源供給施設）、ワールドカップスタジアム（前記地域暖房公社の熱供給先）、首都圏埋立管理公社（仁川にある世界最大の埋立処分場）、Eco Energy（前記最終処分場からのメタンガスを利用した発電所、50MWhの能力は現在世界最大級）、最終処分場敷地内にある建設中のRDF製造工場と下水汚泥処理場を見学しました。

そして、夜には仁川国際空港から成田空港と関西空港へと帰国の途につきました。濃密な3日間でした。お世話になった韓国の皆さまに心からお礼を申し上げます。



写真3 始華湖潮力発電所建設現場のインフォメーションセンターにて

### ～ 新規加入会員案内～

個人会員

敬称略

会員名	所 属	専 門 分 野 等
中庭 光彦	多摩大学総合研究所	水政策史、水文化論

### 学会事務局からの案内と連絡

#### 原稿募集！

学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募っております。次号の締め切りは、**8月31日**です。投稿規程や執筆要領は学会誌の巻末にあります。投稿希望の方は、学会誌巻末または裏面の原稿送付票を添えて下記担当理事まで原稿をご送付下さい。次号の内容をさらに充実させるべく、皆さまのご投稿をお待ちしております。お問い合わせなども下記までご遠慮なく！

学会誌編集担当・事務局 野村 克巳

連絡先（自宅） 〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町8-7-610

電話 & F A X : 0797-34-4785 E-MAIL : k-nomzo@hi-ho.ne.jp

**2009年度会員名簿を発行しました。連絡先などに変更はございませんか？**  
所属先、連絡先等、変更がございましたら学会事務局までご連絡下さい。

#### ニュースレターのメール配信にご協力をお願いします！

前号より、ニュースレターのメール配信（PDFファイルを添付）を開始しております。未だ、事務局に配信方法のご希望をご連絡いただいていない方は、事務局までご連絡下さいますよう、お願い致します。省資源、事務局経費の削減、運営の円滑化のために、ご協力をよろしくお願い致します。

